

7番 米永 あつ子 議員

1 共生共同の鹿屋市づくりについて

- (1) 高齢夫婦のみの世帯や一人暮らし高齢者など、日常生活を営む上で、何かあったときに頼る人がいない、いわゆる身寄りがない方が増加傾向にあるが、本市の現状を問う。
 - ① 本市のいわゆる身寄りがない高齢者等の推移を示されたい。
 - ② 死後に引取り手がない「無縁遺体」の取扱人数の推移について示されたい。
 - ③ 社会や家族の在り方が多様化しており、「親族に連絡がついても遺体の引取りを拒否される」案件も少なくないと聞くが本市での状況はどうか。
 - ④ 身寄りのない高齢者が亡くなった場合の市の葬儀・行政手続・遺品整理等の対応について本市の取組を示されたい。
 - ⑤ 未婚率が上昇する中で、身寄りのない方が今後増加すると心配されるが、このような状況において、民生委員や自治会長がどのように情報を共有し、地域の支援体制を強化するためにも地域での相談や対応事例があるのかを示されたい。
- (2) 市民の皆様から積極的に参加を促し、推薦を広く募集する「みんなで選ぶ！市民参加型市民表彰」についてどのように考えるか。
- (3) 8月に開始した戦後80年特別企画展は多くの方から非常に好評で、展示内容やテーマに興味を持った声も多数寄せられ、今後の常設展示について検討する余地があると感じている。是非とも市民のニーズに応えられるよう、常設展示の可能性を前向きに考えていく必要があると思うがどうか。

2 持続可能な一次産業政策について

(1) 『令和の米騒動』を契機とした新たな農業政策の考え方について

- ① 課題を抱える農業で、生産調整から増産への転換を図るとすることは、本市において可能なのか。
- ② 将来的な増産にも対応できる耕作可能な水田の確保の対策を示されたい。
- ③ 世界的な食料需要の増加や、気候変動による影響を考慮し、国際的な観点からの増産戦略が求められている。その中で、国内の米の生産基盤を維持・拡大し、安定した供給体制を確保することが、今後の大きな課題と感じている。本市において、他市に先駆けて新規就農者の支援策や、米の増産に向けた独自の取組があれば、伺いたい。
- ④ 補助事業の少ない「中小農家」への支援策について示されたい。

(2) 鳥獣被害対策について

鳥獣の個体数が増加し、捕獲を行う人手が減少している。また、里山の管理不足も影響して、被害がなかなか減少しない現状がある。特に過疎化が進んでいる地域では、耕作放棄地が増えており、有害鳥獣の生息空間が広がることが懸念される。このような背景のもと、現在の状況を整理し、今後強化すべき具体的な対策について示されたい。

(3) 森林保全について

- ① 森林保全は、山だけではなく海の保全活動にもつながっており、温室効果ガス排出削減や災害防止を図る観点からも、全国的に森林の役割が重要視され、地球温暖化対策の取組として特に重視されてきている。ゼロカーボン宣言を行った本市として、従来よりももっと市として森林保全に力を入れるべきだと考えることから、森林環境譲与税を活用した森林保全について伺う。

ア) 森林所有者を対象とした意向調査の結果内容について、所有者から、所有する山林の今後について、どのような意見があったのか。

イ) 森林環境譲与税の使途に関して、林業従事者の担い手確保をはじめ、様々な施策への予算配分が考えられるが、今後の具体的な取組について、示されたい。

3 市民の暮らしに直結する生活環境整備について

(1) 大雨時における合併処理浄化槽の逆流防止対策について、逆流防止弁設置補助の実施を検討できないか。昨今の極端な気象により、浄化槽の機能が影響を受けることが増えている。そこで、逆流防止弁の設置を促進し、安全性を向上させるための補助を検討してはどうか。地域の皆様が安心して暮らせる環境を整えるためにも、この施策が有効であると考えているがどうか。

(2) 一般ごみの一部収集方法を変更することについて再度問う。

① 剪定枝や庭の草取りに関して現在のルールでは、燃やせるごみを市の指定袋に入れ、50cm 程度に切断し、紐で束ねる必要がある。しかし、透明袋を使用することで、より多くの方々にとって利用しやすくなるのではと考えるが、この方法への変更が可能かどうか見解を伺う。

② レジ袋の有料化後、「有料レジ袋が、ごみ袋として使えないのは不便」という声も上がっているが、この点について何か検討されたか。

また、ごみ出しにおけるレジ袋の活用については、環境への影響やリサイクルの観点、さらには市民の経済負担を軽減するために重要な課題と考えるが、今後の方針について示されたい。